



# こころみ

担当：校長会

今年度の市教科学習推進委員会は、第8次学力向上対策策定に向けて



## 「スピード感のある改善力」で臨みます！

私は、昨年度の「確かな学力向上のための具体的取組『パワーアップ』」の巻頭言の最後で次のように述べました。「この教科学習推進委員会の性格が、設立当初から大きく変わってきています。当初は市のNRT分析が主な任務でしたが、今はそれとともに市全体の教育の方向性を決定する『学力に関する提言』を作成する場となっています。…いずれ、何事も従来からあることを当たり前と思わず、P-D-C-Aサイクルのまな板にのせ『スピード感のある改善力』で未来を担う子どもたちのためによりよい方向を探っていくことが学力の向上につながると思います。」このようなスタンスで市教育研究所と相談しながら、皆さんの総意に近いと思われるところから改善してきました。今年度は第8次学力向上対策策定の年です。スリム化と焦点化をコンセプトに「スピード感のある改善力」で未来を担う子どもたちのために委員一同邁進していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

大館市教科学習推進委員会委員長 五十嵐 經

## 改善第1弾「小6・中3の国語・算数or数学NRT」休止

新学期を迎えたばかりの4月に、NRTと全国学力学習状況調査がほぼ同時期で、両者の調査とも全国トップクラスの位置にある本市の状況と、子ども・教師ともに負担が大きいということから、市独自に実施している国語・算数or数学NRTを休止しました。

過去のデータとの連続性が途切れるという意見がありましたので、全国のデータを偏差値に変換して活用することにしました。



## 改善第2弾「市としてのNRT分析」廃止

本市全体のNRT結果は10年以上良好に推移していますが、さらなる課題を見いだすために、毎年教務主任と研究主任の先生方に分析をお願いしてきました。ここ数年「分析のために、無理に課題を見出している傾向があるのではないか。」という意見が多く、本市全体のNRT分析の必要性について検討しました。

その結果、「提出を求める分析」から「自校の改善力を求める分析」にシフトしていこうという結論に至り、本市全体のNRT分析を廃止しました。市教育研究所からは市全体の平均等のデータを提供しますので、資料として役立ててくださるようお願いいたします。様式は自校の偏差値や正答率を入力すると市平均との比較ができるようになっています。自校の授業改善のためぜひ活用してください。もちろん、提出は求めません。

## 改善第3弾「パワーアップ」冊子形式、大幅変更

今までの「パワーアップ」冊子は、(様式1) 前年度の確かな学力向上のための具体的取組 [評価]、(様式2) 今年度の確かな学力向上のための具体的取組 [計画] が見開きになっており、各校に提出を求めていました。昨年度の「パワーアップ」の巻頭言にも書かせていただきましたが、情報が多すぎて何が重点か分からない、型どおりの教育用語を多用した文章が多く情熱が伝わってこない、「確かな学力」の共通評価欄が各校それほど差異が無く不必要に感じるというのが反省点としてあげられました。形式のスリム化も検討しましたが、思い切って今までの様式1 & 2の形式は廃止した上で、この点についても「提出を求める分析」からシフトしようという考えにたちました。それならば、第〇次学力向上対策に対する評価をどのようにするのかということが課題になり、第4弾改善案に至りました。



## 改善第4弾「教師一人一人による自己評価」をもとに 第8次学力向上対策策定

第〇次学力向上対策 A4 版の一番上に「子どもと教職員の力を1割アップしよう」と書かれています。そこで、教職員一人一人の自己評価がベースになるべきという考えにたち、その集計結果の分析に基づいて市全体の評価をし、さらに次の学力向上対策を模索すべきという結論に至りました。というわけで、授業を受け持っている先生一人一人、「第7次学力向上対策〈教師による自己評価〉」という A4 版1枚のアンケートに答えていただくようお願いします。8月20日(火)締め切りになっていますので、各校ごとに集計の上、市教育研究所へ届けてください。



「改善」と言えばいつも思い出すのは、「スーパードライ」を世に出し、瀕死の状態だったアサヒビールを業界 No.1 へと導いた元代表取締役社長、樋口廣太郎の言葉「前例がない。だからやる!」です。彼の著書におもしろい文があります。「人間には、『かしこ、かしこ』『かしこ、あほう』『あほう、あほう』『あほう、かしこ』の四つのタイプがあります。男が妻に迎える理想の女性像は、『あほう、かしこ』だといわれます。このことは、会社組織のリーダーについても同じことがいえます。『かしこ、かしこ』は、頭のよさをひけらかすので周囲を暗くさせてしまう。『あほう、あほう』ではまったく頼りになりません。『かしこ、あほう』もいざというときに危なくて仕方がないでしょう。部下がリラックスして仕事ができ、肝心なときには、頼りになる『あほう、かしこ』の上司なら、組織も仕事もスムーズに運びます。」

改善案が出たとき、「前の方法にも良さがある」という意見が出る場合があります。良さがあるのは当たり前です。その当時の方々が一所懸命知恵を絞って考えたのですから。学力の位置づけが大きく見直されている大館市で、どんどん思い切って各方面のスリム化と焦点化を図っていかないと、と強く思います。

最近はやっぱりこの言葉でしょう。「いつ改善するの?」「今でしょ!」

